



福岡市消防航空隊



1. [福岡市の消防](#)
2. [消防航空隊の沿革](#)
3. [現在の消防航空隊](#)
4. [保有ヘリコプター主要諸元性能](#)
5. [機体名称・デザイン](#)
6. [災害活動](#)
7. [主な装備・資機材](#)
8. [ヘリTVとEMSの装備](#)
9. [消防航空隊訓練](#)
10. [福岡空港と消防航空隊](#)

●福岡市の消防

福岡市は、九州北部にある福岡平野の中心に位置する市域面積 340.60 平方キロ、人口約 142 万人の九州の産業・経済の中核都市で、大都市の機能を持ちながら、自然環境にも恵まれ、多くの人から住みやすい街といわれています。

福岡市消防局は、本部に 3 部、8 課、1 学校、1 航空隊、1 災害救急指令センター及び 7 行政区に 7 消防署、25 出張所を置き、職員 1,025 名と消防ポンプ車等の消防機械 260 台をもって防災の任にあたっています。

平成 19 年中の福岡市における火災・救急発生状況は、火災 406 件・救急 57,749 件となっており、火災件数については近年ほぼ横ばい状態となっていますが、救急件数は 10 年前（平成 9 年／37,171 件）の約 1.6 倍となっており、依然として増加傾向にあります。

●消防航空隊の沿革

福岡市における消防航空隊の歴史は、昭和47年に「消防航空隊発足に伴う整備準備委員会」が設置されたことに始まります。

当時国内の大都市の消防では、都市型災害に対応するため消防航空力の整備に力を注いでいました。その結果、昭和41年に東京消防庁、昭和45年に大阪市、昭和47年に神戸市・京都市、昭和48年に名古屋市と相次いで消防航空隊が発足しました。

福岡市においては昭和50年4月、全国で6番目の消防航空隊として、フランス製小型ヘリコプター（シユド式 SA316B アルウェットⅢ型／愛称：あかとんぼ）1機、隊員8名（操縦士2名、整備士2名、航空救助員4名）をもって発足しました。

●現在の消防航空隊

現在の消防航空隊の組織は消防局警防部に所属し、消防航空隊長以下13名（操縦士5名、整備係長1名、整備士3名、航空救助員4名）の職員とフランス製中型ヘリコプター2機（AS365N3 ドーファンⅡ／愛称：ゆりかもめ、AS365N2 ドーファンⅡ／愛称：ほおじろ）を保有し、発足後33年を経て消防航空力は飛躍的に強化されました。

平成19年中における運航実績は飛行件数481件、飛行時間464時間30分でそのうち災害出動は178件、107時間22分となっています。

また、ヘリコプターの運航は災害活動に限らず、離島診療業務のための医師等の搬送や調査、産業廃棄物のスカイパトロール等の行政目的にも活用されており、消防ヘリコプター「ゆりかもめ」、「ほおじろ」の名前は広く市民にも知られています。

●保有ヘリコプター主要諸元性能

		1号機「ゆりかもめ」AS365N3	2号機「ほおじろ」AS365N2
機 種			
諸 元	最大定員	14名	13名
	最大重量	4,300kg	4,250kg
	エンジン最大出力	800馬力×2	632馬力×2
性	搭載燃料量	1,158 L	
	燃料種類	JET A-1 危険物類別／第4類 第2石油類	
	最高速度	324km/h	
能	最大航続距離	814km	860km
	最大航続時間	4時間06分	4時間18分

ホイス能力	272kg
ホイス ケーブル長	90m
EMS担架数	1基
機外吊下能力	1,600kg

●機体名称・デザイン

昭和50年に導入されて福岡市の消防を21年間空から支え、平成7年にリタイヤした福岡市初の消防ヘリコプターの機体名称は、導入当時一般的ではなかった消防ヘリコプターを広く市民に知ってもらおうと公募した結果、市内の小学生から応募された「あかとんぼ」が採用されました。

現役をリタイヤした「あかとんぼ」は、現在、福岡市民防災センターに現役当時そのままの勇姿をとどめ、展示の目玉として多くの来館者を集めています。

現在保有する2機のヘリコプターの機体名称は、それぞれ福岡市の鳥に定められている海の鳥「ゆりかもめ」と野山の鳥「ほおじろ」から命名されました。いずれも福岡市内でよく見られ、市民からも親しまれている鳥です。

機体のデザインは、福岡市の「F(F u k u o k a)」と「フ(フクオカ)」の文字をデザイン化し、1号機「ゆりかもめ」は赤地に白のライン、2号機「ほおじろ」は白地に赤のラインでカラーリングされ、シンプルで見たいにも美しいだけでなく、消防活動時には容易に識別できるようにも配慮されています。

●災害活動

消防航空隊では市域内で発生する火災をはじめとする各種災害に出動するほか、消防組織法第39条に基づく「福岡県消防相互応援協定」、消防組織法第44条に基づく「大規模特殊災害時における広域航空消防応援実施要綱」及び「緊急消防援助隊要綱」により広域的な航空消防応援活動を行っています。

主な消防航空活動

1. 火災等の災害時における情報収集活動
2. 林野火災消火活動
3. 患者搬送等の救急活動
4. 各種救助事案における捜索救助活動
5. 被害状況調査活動

災害出動は年間約160件で、特に地形が険しく水利状況の悪い林野火災は、地上からの消火活動が困難なことから、ヘリコプターの持つ機動力を活かした消火活動がその威力を発揮しています。

近年の特異な災害活動事例として、平成17年3月に発生した福岡県西方沖地震の際には、発生直後から被災状況の通報と共にリアルタイムな映像送信、負傷者搬送や消防隊員の搬送等ヘリコプターの機能を十分に活かした活動を実施しました。

広域航空消防応援活動の主な事例としては、平成3年の長崎県雲仙普賢岳噴火災害において、空中消火及び孤立者10名の救出を行ったほか、その後2年間にわたり調査活動を実施しました。

その後も九州・中国地方で発生した地震の被害状況調査や平成15年の水俣水害における行方不明者の捜索等を実施しました。

最新の活動事例としては、平成19年3月に発生した熊本県阿蘇山原野火災に出動し、九州各県の消防防災ヘリと共に空中消火を実施しました。

●主な装備・資機材

ヘリコプターの持つ機動力を最大限に活用し、あらゆる災害事案に対応するため福岡市消防航空隊では様々な装備・資機材を保有しています。

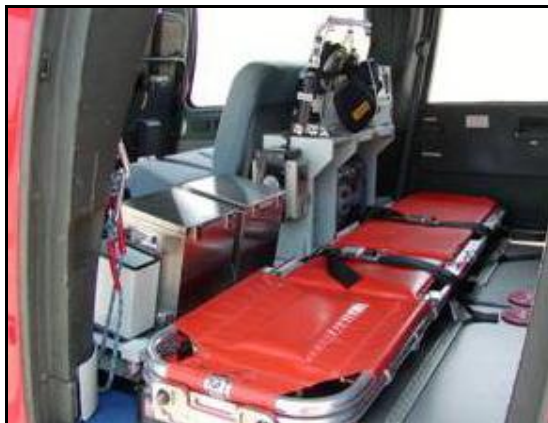
救助用ホイスト	消防ヘリコプターには欠かせない主要な活動用装備品で、電動モーターにより作動するウインチの一種です。 先端にフックの付いたワイヤーを伸長し、救助隊員や消防資機材、要救助者などの降下又は引き上げに使用します。
ラペリング装置	機体からロープを吊り下げて、救助隊員がロープ伝いに降下するのに使用します。
消火バケツ	空中消火用資機材で、ヘリコプターの機体下部にワイヤーで吊り下げて、林野火災等の空中消火に使用します。 バケツの容量は約550リットルで、自然水利（池など）からの給水やタンク車からの給水も可能な資機材です。
機外スピーカー	ヘリコプターの外部に取り付けたスピーカーにより、救助活動時の呼び掛け、避難誘導、広報活動等を行います。
サーチライト	1,600ワットの明るさを持つ照明装置で、夜間の捜索救助活動等に使用します。
航空救助活動用資機材	航空救助員が使用する活動用資機材は約20種類で、主に山岳救助活動、水難救助活動及び高層建物火災時の救助活動に対応する資機材を保有しています。

●ヘリTVとEMSの装備

ヘリTV（ヘリコプターテレビ電送システム）の装備



EMS（ヘリコプター救急資機材）の装備



●消防航空隊訓練

複雑・多様化する災害において、消防ヘリコプターの機能を十分に発揮するために地上消防隊との連携は必要不可欠であることから、消防航空隊では計画的に様々な合同訓練を実施しています。

救助隊との合同訓練

救助隊は、現在7消防署に各1隊を配置し、多数の特殊救助機材を駆使し様々な救助事案に対応しています。

この高度な救助技術をヘリコプターの持つ機動力と連携させ、山岳救助・水難救助など立体的な活動が必要とされる救助事案に迅速に対応するため、救助隊員の投入、要救助者の救出などの一連の救助活動を想定した実戦的な訓練を実施しています。



救急隊との合同訓練

救急隊は市内に25隊を配備し、全ての隊に救急救命士を配置することにより高度な救命行為ができる体制をとって、増加の一途をたどる各種救急事案に対応しています。

また、年間約57,700件発生する救急事案の中には、離島からの急患搬送や専門医療機関への搬送を必要とするものもあり、このような救急事案にはヘリコプターが積極的に活用されています。

このような事案に対応するため、救急隊員がヘリコプターに搭乗し患者観察、心肺蘇生等の処置訓練を実施するほか、飛行高度の変化や機体振動が患者に与える影響の調査を実施するな

ど、ヘリコプター内での救急処置の技術向上を目的にした訓練を実施しています。また、山岳での救急事案を想定し、救急隊員がホイストにより降下し、早期の救命処置が行えるような訓練も行っています。



警防隊との合同訓練

現在、福岡市ではポンプ・タンク車を運用する消防隊32隊を配置し、各種の都市型災害に対応しています。

一方、福岡市を囲む各山系や市域内にある原野等における火災も多数発生しており、ポンプ・タンク車を運用する消防隊とヘリコプターとの連携活動は、山林や原野の火災における防ぎよ活動上、必要不可欠なものとなっております。

このような山林や原野の火災におけるヘリコプターの消火活動時に必要な、消火バケツへの給水活動等が安全で迅速に実施できるよう訓練を行っています。



消防艇との合同訓練

福岡市では消防艇「飛龍」(総トン数54トン, 最大速力21ノット, 最大搭乗人員30名)を保有しており, 海上や離島における火災・救急・救助事案に対応できる様々な装備と機能を持たせています。

このような機能を持つ消防艇とヘリコプターの持つ機動性を組合せ, 更に有機的な消防力とするため, ヘリコプターから消防艇への隊員及び消防機材の投入・収容訓練, 海面からの救助訓練等を実施しています。



指揮隊との合同訓練

7消防署に配置された指揮隊が, 災害時における指揮能力の向上と管内情勢の把握を目的に, 上空からの指揮訓練や防ぎょ困難対象物・地域等の調査を実施します。

このような上空からの指揮活動等のため, 消防車両には天井に車両番号が表示されており, 指揮者が円滑に消防隊の配置状況の把握や活動指示ができるようになっています。また, ヘリコプターテレビ電送システムにより上空から撮影した映像は, 災害現場本部の簡易受信装置で受信し, 災害全体の状況を把握して指揮支援活動に活かされています。

その他の訓練

以上のような合同訓練のほか, 消防航空隊訓練として救助訓練・バケツ消火訓練や操縦士訓練を実施するとともに, シミュレーター(模擬飛行装置)を使用しての計器飛行訓練, ヘリコプター不時着水時における乗組員の救命のためのディッチング(着水脱出)訓練, 整備技術向上のための整備訓練を実施しています。

●福岡空港と消防航空隊

消防航空隊が基地を置く福岡空港は, 都心から約6キロの位置にあり, 空港ターミナルに地下鉄が乗り入れるなど, 日本でも数少ない市街地空港です。

そのため, 福岡空港は利便性等に優れた空港であるという反面, 市街地のほとんどの地域が, 頻繁に航空機が飛行する管制圏内に含まれ, また, 主要な港湾施設や高層共同住宅, 繁華街等が航空機の離着陸コ

ース付近にあり、災害活動など緊急かつ特殊な飛行が要求される消防ヘリコプターは航空管制上の厳しい制限の下で活動を実施しなければなりません。

このような状況下にはありますが、空港の管制官の消防活動に対する理解と協力を得ながら、消防航空隊パイロットの豊富な経験と的確な判断により、他の航空機との安全確保を図りながら円滑な消防航空活動を実施しています。